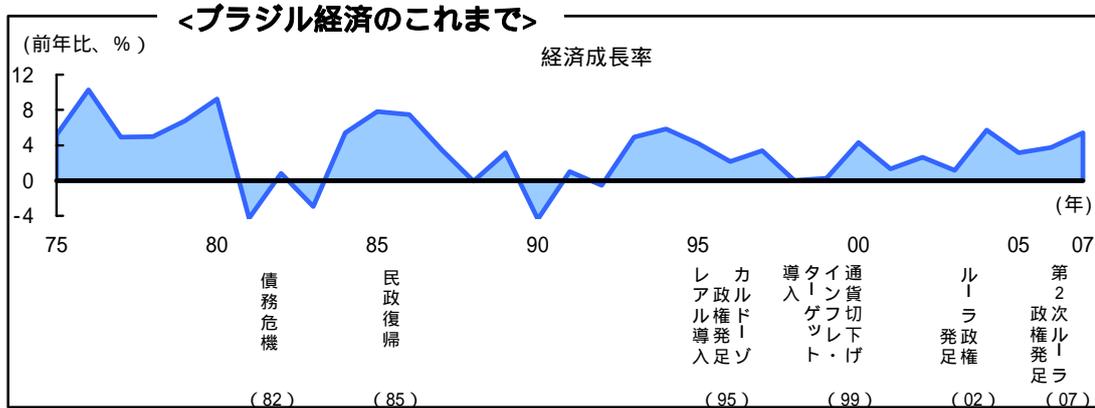


# 20 ブラジル

# Federative Republic of Brazil

<2007年>

人口	1億8,930万人 (日本の約1.4倍)	財政会計年度	1月～12月
一人当たりGDP	6,844ドル	為替制度	変動相場制
産業構造(GDP構成比)	1次産業 8.0% 2次産業 38.0% 3次産業 54.0%	通貨	レアル 1米ドル=1.95レアル
		面積	851.2万km <sup>2</sup> (日本の約22.5倍)



ブラジルの主要経済指標

		97～06年	2007年	2008年見通し			2009年見通し			民間機関見通し
				中央政府	OECD	IMF	中央政府	OECD	IMF	
実質GDP	前年比%	2.6	5.4	5.0	5.3	5.2	4.5	3.0	3.5	実質GDP
鉱工業生産	同上	2.6	6.0	-	-	-	-	-	-	2008年
消費者物価	同上	7.0	3.6	6.4	6.3	5.7	4.5	5.3	5.1	平均
失業率	%	10.0	9.3	-	-	-	-	-	-	最大
経常収支	億米ドル		14.6	-	-	-	-	-	-	最小
(GDP比)	%		(0.1)	-	(1.7)	(1.8)	-	(2.2)	(2.0)	2009年
財政収支	億米ドル		15.4	-	-	-	-	-	-	平均
(GDP比、年度)	%		(0.1)	-	-	-	-	-	-	最大
政府債務残高	億米ドル		4,564	-	-	-	-	-	-	最小
(GDP比、年度末)	%		(30.0)	-	-	-	-	-	-	(22社)

(備考) 1. ブラジル中央銀行、ブラジル地理統計院、IMF “International Financial Statistics” より作成。  
見通しの政府は、2009年予算案(2008年8月)、OECDは“Economic Outlook”(2008年11月)、IMFは“World Economic Outlook”(2008年11月)による。  
2. 失業率は、2002年から対象が15歳以上から10歳以上に変更となっているため、それ以前と接続しない。

## <2008～2009年の経済>

ブラジル経済は、雇用環境の改善等に伴い個人消費が堅調に推移した。また、資源高を背景に資源国である同国に海外からの資金が流入し、民間投資の増加が加速するなど、好調な内需が成長をけん引してきた。経済成長率は前年同期比で1～3月期は5.9%、4～6月期は6.1%となっており、08年全体の成長率は5%台前半と見込まれる。このような景気拡大に加え、世界的な食糧・エネルギー価格高騰の影響もあり、07年後半から消費者物価が上昇したことから、中央銀行は4月より政策金利の上げを行うなどの引締め政策を採ってきたが、インフレ懸念の一方で金融危機による実体経済の悪化も懸念されることから、10月には政策金利を据え置くとの姿勢に転じた。また、金融危機以降、それまで大幅な流入を続けてきた国外からの資金の対外流出により、国内金融市場の資金の逼迫感が高まるなどの影響もみられた。

2009年については、これまで好調を維持してきた内需についても、世界的な金融危機の影響を受けて、経済成長率は3～4%台に鈍化すると見込まれる(政府見通し4.5%、IMF見通し3.5%、民間機関22社の平均2.5%)。また、これまで資源価格の上昇により恩恵を受けてきた輸出の動向についても留意していく必要がある。